

法人サポーターとの出会い

有限会社カミナリ屋



CIESF は多くの法人・個人サポーターの方々のご支援で活動しています。特に法人サポーターには、CIESF の活動を深く理解し、長く継続してご支援くださる企業・団体様が増えてきています。現在、6 年以上法人サポーターを継続くださっている「ゴールドサポーター」企業が 90 社以上あり、日々のご縁にスタッフ一同感謝の気持ちでいっぱいです。

各企業様とは、必ず出会いのきっかけがあります。日本で CIESF の活動を知り、サポーターのお申し込みをいただくことがほとんどです。そのような中で、カンボジアの支援現場の視察がきっかけで CIESF の活動を知り、法人サポーターになってくださる企業様も徐々に増えて参りました。有限会社カミナリ屋(埼玉県 代表取締役 遠藤貴博)様もそのひとつです。現在カンボジアのプノンペンに POKI POKE というお寿司屋さんをオープンしています。その出店に向けた準備をしていた 2015 年 5 月に、CIESF Business Training Center(CBTC)を見学し、CIESF の活動に賛同され、すぐに法人サポーターになってくださいました。本当にうれしい現地でのご縁です。これからもこのようなご縁を大切に、引き続き支援活動を行って参ります。いつも支えてくださるサポーターの皆さまには、あらためて感謝申し上げます。

CIESF ウェブサイトリニューアルへのご支援 ③



【カウントダウンに入りました】

こんにちは。CIESF 事務局の増子です。ステージグループ様の多大なるご支援によりスタートした、CIESF ウェブサイトリニューアル。ついに、新しいウェブサイトのデザインが仕上がりました！ 写真もたくさん入っていて、ページ変遷もわかりやすく、クリックしたときにわくわくしました。新しいサイトがオープンしたら、2008 年からお世話になっていた現ホームページは見られなくなってしまうので、この数年コツコツ掲載してきたりポートなどは、これから新しいサイトに移行していきます。問題は、私の作業効率です。部屋の模様替えとか引っ越しとかいうと、懐かしいアルバムを見始めたり、本や雑誌のページをめくり始めたりして、いっこうに進まなくなるくせがあるので、これと同じ行動を、データ移行に持ち込まないよう気を付けます。4 月初頭のオープンまで、あとちょっと。(事務局増子)

●ステージグループ: <http://www.stagegroup.jp/>



CIESF サポーター募集

- 法人サポーター 1口10万円(寄付から1年間)
- スペシャルサポーター 1口5万円(寄付から1年間)
- 個人サポーター 1口1万円(寄付から1年間)

三菱東京 UFJ 銀行 青山支店(店番 608)普通預金
口座番号 0021714
口座名 公益財団法人 CIESF 理事長大久保秀夫

※ゆうちょ銀行、楽天銀行、クレジットカードでのご寄付については、CIESF ホームページをご覧ください。継続的なご寄付に便利な金融機関引き落としもはじめました。



CIESF の支援活動は寄付で成り立っています。皆さまのあたたかいお気持ちをお待ちしております。

編集後記 1 年ぶりにカンボジアに行ってみました。今回は初めて、スパイエンを視察できたのが大きな収穫です。これまでのスパイエンについてのお伝えは、血がかよっていなかったかもしれません。やはり自分で見聞しないと広報は務まらないと実感しました。うまく伝えるぞ！ (YM)

発行: 公益財団法人 CIESF
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-7-5
URD 渋谷第 2 ビル 4F



CIESF NEWS LETTER

シーセフ ニュースレター

2016 March

第 36 号

公益財団法人 CIESF(シーセフ)は、非営利で国際的な民間の支援団体です。基礎教育の質の向上を主な目的とし、その上で高度人材育成も行い、カンボジアをはじめとした途上国の発展を支援します。

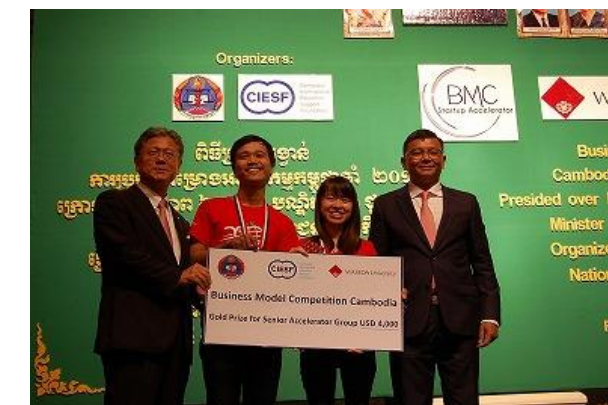
第 6 回カンボジアビジネスモデルコンテストが無事に終わりました

2016 年 2 月 13 日(土)に、第 6 回目となるカンボジアビジネスモデルコンテストの最終選考会と表彰式をプノンペンで開催しました。2015 年 10 月末からカンボジア国内で募集を開始した同コンテストでの受賞者を決定する発表会は、カンボジア日本人材開発センター(CJCC)で、表彰式は会場を移し、ソフィテルホテルにて、開催しました。

昨年度の第 5 回までは、現役の大学生のみを対象としていましたが、今回は選考対象に 2 つのレベルを設定し、それぞれから優勝と準優勝を選考しました。ひとつは、大学院もしくは大学卒業から 5 年以内の社会人を対象としたシニアレベルで、もうひとつは大学の学部生を対象としたジュニアレベルです。カンボジアの大学を卒業後、海外の大学院を出てカンボジアに戻った者もシニアレベルとして参加できます。



今回から新しく対象となったシニアレベルチームの発表。すでに事業をはじめているチームがほとんどでした。



シニアレベルの優勝チームへは賞金 4000 ドルが授与されました。(左から CIESF 理事長大久保秀夫、優勝したチーム、カンボジア教育大臣 H.E. Dr. Hang Chuon Naron 氏)

また、シニアレベルについては、現実的な事業レベルを持っていることを条件とし、本気の起業を目指す若者を支援する目的を、より強くもったコンテストとなりました。CJCC での最終選考会に出場したのは、シニアが 6 チーム、ジュニアが 7 チームの合計 13 チームですが、2015 年 11 月から 2016 年 1 月まで、実践経営学に基づいた起業研修を行いました。最終選考に残ったチームのビジネスモデルは、紙上のモデルではなく、それぞれある程度起業を経験した結果を踏まえたものとなっています。

また、最初に策定したビジネスモデルも、約 2 ヶ月にわたる研修で、かなりブラッシュアップされた模様でした。日本から来たサポーターの方に感想を伺ったところ「カンボジアの若者のプレゼン能力の高さに、驚いた」という声を頂戴しました。ソフィテルホテルでの表彰式は、今年は、来賓、スポンサー、審査員、主催者、そしてシニアレベルとジュニアレベルそれぞれから上位 3 チームずつのみを招待する形式で行いました。次のページで、優勝したチームとその事業内容をご紹介します。

<シニアレベル>

1 位 「Pengpos Online Grocery Shopping」 (賞金 4000 米ドル・金メダル)

買い物に行かなくても自宅からインターネットで注文できるネットスーパーマーケット。働く主婦や小さい子どもがいる家庭にとって強い味方となり、また地元の農家などから仕入れるためその支援にもなる。

<ジュニアレベル>

1 位 「Warm House」 (賞金 2000 ドル・金メダル)

1 歳から 5 歳の子どもの世話をする公共施設。仕事などで忙しく子供の面倒を見る時間が十分でない家庭を対象としている。核家族の親には子どもの育て方を学ぶ場となり、スタッフとしてはシニア女性を雇用する。

このコンテストの結果は終わりではなく、起業のはじまりです。

参加チームの中から、将来、世界の誰でも知っているような大企業が生まれるなどということになったら、と考えると、夢のある活動ですね。それぞれの 2 位・3 位については、CIESF のホームページの「現地レポート」(2 月 22 日)にて紹介しています。ぜひご覧ください。

現場の声に勝る情報はなし！ ②

前号から、最近届いた「教育アドバイザーの活動日誌」をあらためてニュースレターにも抜粋を編集して掲載させていただきます。カンボジアの教育現場の現状や支援活動のリアルな様子がタイムリーにわかるからです。ウェブではお伝えできないポイントも書かせていただきますので、すでに読んだことがある方も再度ご覧いただけますと幸いです。今号は、小学校教員養成校で理科と算数を担当している 2 人のレポートから。

【視聴覚教材用のビデオ撮影裏ばなし】 プノンペン小学校教員養成校(理科担当) 長沼健

CIESF は 3 地域 5 校(小学校は 3 校)で支援を行っていますが、全国には小学校教員養成校が 18 校もあり、全体に支援を拡大するには、視聴覚教材の利用が必要だということで、現在視聴覚教材制作に取り組んでいて、私が担当をしています。視聴覚教材としてのビデオには、日本人ボランティア教師は登場せず、現地の教官が教材について説明をし、作り方を実演する映像になっています。今回のビデオは、日本人ボランティア教師は黒子に徹し、現地の教官が主人公です。撮影を始めて気づいたことは、彼らにもしっかりとものを映像に残したいという思いがあり、教材を作る練習をしたことでした。

作り置きで撮影しようとする「自分で作るから流して撮影して欲しい」という要望もありました。ただぶっつけ本番ではそう簡単にはいかなく、「ダメ出し」をすることにもなります。

撮影が終わってから、気になることがあると「もう一度撮り直したい」と伝えてきた教官もいました。

“一つの作品を生み出している”

“できるだけ良いものにしよう”

という気持ちが起きているのでしょう。現地の教官たちが日々の授業もまた作品であることに気づいて、適宜修正がかかることに期待しています。

私も現地の教官たちの頑張りを形に残せるように、頑張りたいと思います。



ポイント!

支援をしている CIEF のボランティア教師はビデオには出演せず、カンボジア人教官が映像の中で教材の作り方を説明しています。このビデオを見て学ぶのはカンボジア人教師であるので、自分たちの国の教育を自分たちでよくしよう! という取り組みにつながることを期待しています。

プノンペン市小学校協教員養成校には理科の教育アドバイザー(日本人ボランティア教師)が 2 名いますが、長沼先生は主に「教材開発」を担当しています。

【赴任して 4 か月】 スパイリエン小学校教員養成校(算数担当) 須田麗子

スパイリエン小学校教員養成校に赴任して 4 か月で行った活動を紹介します。

「Team Teaching(TT)を取り入れた授業」

授業見学と共に TT を行っています。教官と授業内容を話し合い、日本から支援として贈呈された教材を使用し、この部分まではアドバイザーの私が担当し、その後に教官に引き続き指導していただくのです。お互いに机間巡視することで、連携して指導にあたることができました。

「教材・教具を取り入れた授業」

日本のロータリークラブからの支援で贈呈された教材・教具を授業の中で活用できるように紹介し、積極的に導入できるように勧めています。学生から「教室に時計がないとき、どうしたらいいですか」「定規がないとき、どうしたらいいですか」と質問されました。学生にとって切実な問題だと実感しました。すぐ手に入るもので教材・教具を製作するカンボジアの教育事情も理解できました。本物の教材・教具を導入しての実践授業は学生には新鮮で、興味深いもので、これからも教材・教具を使っの授業を推進していきます。



ポイント!

“本物”の教材・教具に触れることは、教師の卵たちにとって将来のためにとっても重要なことです。たとえモノのない地域で教師として教えるとしても、その経験は必ず生きてきます。

ご支援ありがとうございます(1月・2月)

CIESF の活動は、多くのサポーターの方々に支えられています。法人サポーターの皆さま(プラチナ・ゴールド・シルバー・ブロンズサポーター他)・個人サポーターの皆さま(スペシャル・個人サポーター・「国境なき教師団」応援団他)には、心より感謝申し上げます。1 月・2 月にご寄付を頂戴した方々を下記にご紹介させていただきます(1/1~2/29)。



【1月】

■法人サポーター(ゴールド): 有限会社友愛商事/ペイフォワード/三栄ビルサービス株式会社/有限会社タクミ/ダイイチデンシ株式会社/株式会社おたより/有限会社セブンドリームス/千代興業有限会社/有限会社 MATZ/IINA 株式会社 ■法人サポーター(シルバー): 株式会社弘陽電設/クジラ株式会社/エーエフ株式会社/株式会社カウテレビジョン ■法人サポーター(ブロンズ): 味重/株式会社えこでん/株式会社 Histoire/有限会社 マーサーズ/株式会社 KATURA ■支援企画寄付: 株式会社イブラ/有限会社アップライジング/株式会社 M's-A/スマイルキューブ株式会社/ソフトバンクモバイル株式会社/リネットジャングル株式会社/株式会社 FIS ソリューションズ/株式会社あなたの幸せが私の幸せ ■スペシャルサポーター: 鳴海禎造 ■「国境なき教師団」応援団: 栗原静子

【2月】

■法人サポーター(プラチナ): 株式会社タウンズポスト ■法人サポーター(ゴールド): 株式会社フジモトダブリューリミテッド/株式会社中部シイアイシイ研究所/株式会社 KAISEI エンジニアリング/株式会社イトジョイ・フードサービス/株式会社フリーセル ■法人サポーター(ブロンズ): 株式会社世真/和奏法律事務所/株式会社トランスマリン/株式会社アウラ ■支援企画寄付: 株式会社イブラ/有限会社アップライジング/スマイルキューブ株式会社/ソフトバンクモバイル株式会社/リネットジャングル株式会社 ■スペシャルサポーター: 本多均/河野孝 ■「国境なき教師団」応援団: 佐藤智理

※以上敬称略